



本物力こそ桑名力

桑 名 市

令和3年度当初予算案の概要

令和3年度当初予算案



本物力こそ桑名力

一般会計当初予算

総額 520.3億円 ・ 令和2年度当初予算と比べて12.1億円（2.4%）増

各会計当初予算の規模

	予算額	(前年度比)
一般会計	520.3億円	(+ 2.4%)
特別会計	276.0億円	(▲ 0.5%)
企業会計	150.0億円	(+ 7.2%)
総計	946.3億円	(+ 2.2%)

令和3年度当初予算の編成にあたって

Creating a Sustainable City (1)



本物力こそ桑名力

“Withコロナ”“Afterコロナ”の新たな暮らし・社会環境等のスタイル



ビジネス
テレワーク
オンライン会議・商談

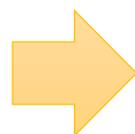
医療
オンライン診療

教育
GIGAスクール構想

コミュニケーション
オンライン飲み会

...etc

人々のライフスタイル等は、
加速度的に変化している!



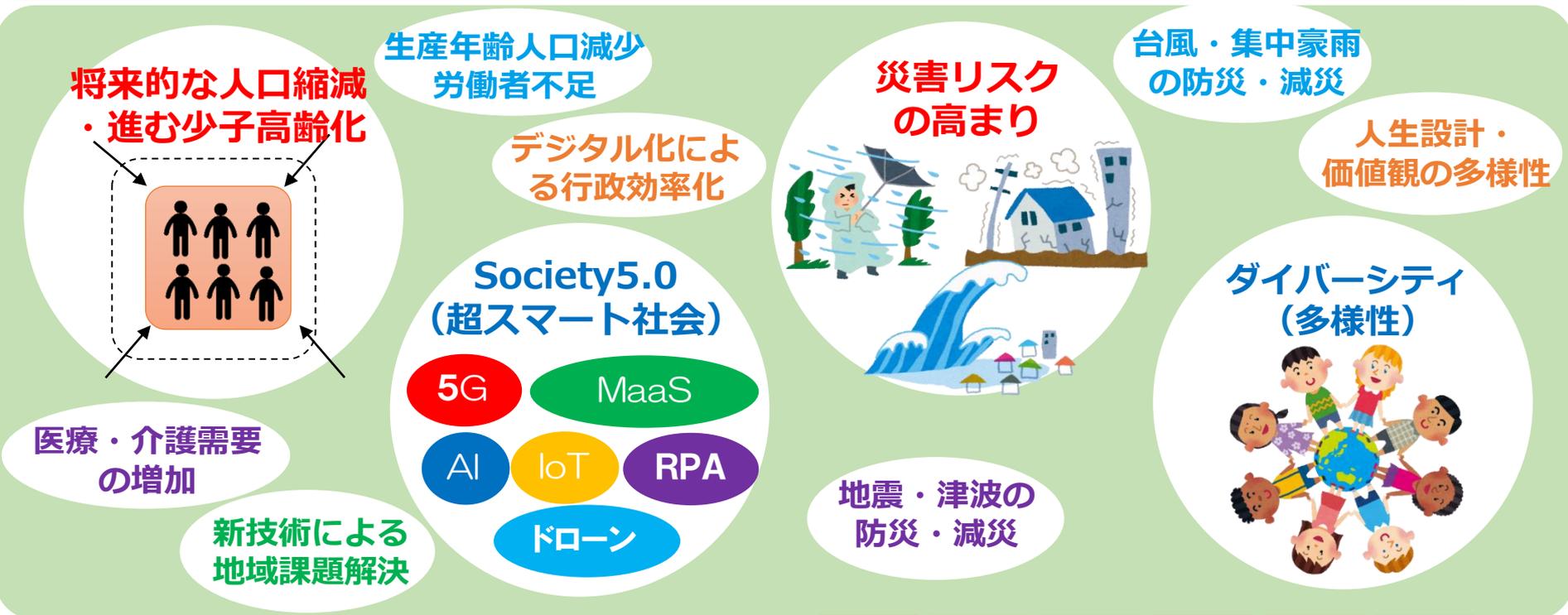
デジタル化の加速!

Creating a Sustainable City (2)



本物力こそ桑名力

“Withコロナ”“Afterコロナ”と同時進行で社会は劇的に変化している！



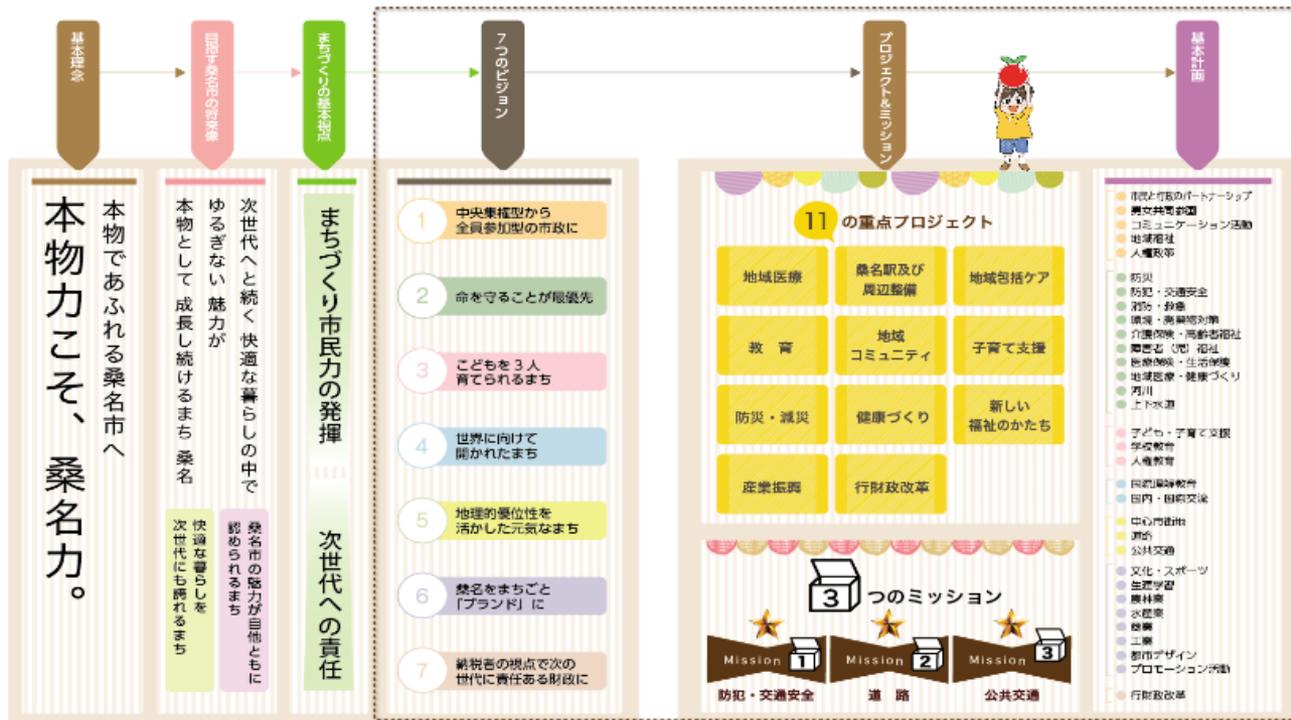
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



Creating a Sustainable City (3)

揺らぐことのない理念「本物力こそ、桑名力。」をもとに

社会の仕組みや生活の在り方などが変化する中で
 目指す桑名市の将来像の実現のため「**総合計画**」を推進し、
持続的な市民の安全・安心な暮らしや豊かな地域社会の実現、
次世代を見据えたまちづくりを進めるべく取組を進めます。



総合計画「まちづくりビジョン（体系図）」

3つのシンカ～本物（真価）であふれる桑名市へ～

戦略的投資

将来の桑名市への成果となる
スピード感をもった積極的投資

芯 化

【価値観の見直しと創造】

- ・ 市民満足度の向上
- ・ 既存の施策の精査
- ・ 3つのミッションの推進

新 化

【超スマート社会の構築】

- ・ スマートシティの推進
- ・ 企業の国内回帰への対応
- ・ 公民連携の推進

- ・ 持続可能な社会の構築に向けた施策
- ・ 中長期的な視点をもった施策
- ・ 重点プロジェクトの推進につながる施策

進 化

【総合計画の推進】



本物(真価)であふれる桑名市へ
～持続可能なまちを創造していく～

令和3年度当初予算の特徴

(進化・新化・芯化→真価)

シンカを続ける 持続可能なまちづくり



本物力こそ桑名力

総合計画を推進するための「3本の柱」

市民の皆様の命を守るための

「防災力の強化」

- ・ 消防本部機能の高台移転
 - ・ 避難対策の推進
 - ・ 国土強靱化の推進
- etc

時代に対応したサービスを
市民の皆様へ提供するための

「スマート自治体への転換」

- ・ 行政のデジタル化
 - ・ 教育ICT
 - ・ 自動運転、MaaS
- etc

持続可能なまちを
創造していくための

「安定した財政基盤の確立」

- ・ 大山田PAのスマート
インターチェンジ化
 - ・ 企業誘致の推進
- etc

「重点プロジェクト」の推進

- ・ 多世代共生型施設整備
 - ・ 桑名駅周辺施設整備
 - ・ 多度地区小中一貫校整備
- etc

「誰一人取り残さない」まちへ

- ・ SDGsの理念 持続可能な社会の実現

新型コロナウイルス感染症対策

- ・ 国の第三次補正予算等を踏まえて、機動的かつ迅速に対策を講じていく

令和3年度当初予算の規模



◎ 一般会計当初予算の規模

令和3年度 一般会計当初予算 520.3億円

(令和2年度対比 12.1億円、2.4%の【増加】)

当初予算規模の推移

当初予算	H29	H30	R1	R2	R3
予算額	528.8億円	518.5億円	506.2億円	508.2億円	520.3億円
増減率	2.1%	▲2.0%	▲2.4%	0.4%	2.4%

防災力の強化（1）

⑧ 消防庁舎等再編整備アドバイザー業務実施事業 800万円

- 公民連携を活用した、消防本部の高台移転を含む消防庁舎等再編整備に向けた民間事業者の選定に係る支援業務を委託する。

⑨ 戸別受信機整備 2,080万円

- 現在の防災行政無線（同報系）は風水害時に屋内で聞こえにくく、また、長島地区等に配布されている現在の戸別受信機が電波法改正により使用できなくなることから、FM放送網を用いた戸別受信機を市内全域の必要とする世帯に配布する。

⑩ 保存版ハザードマップ作成 428万4千円

- 前回の住民向けハザードマップ配布時から新たに多くの被害想定が追加・更新されてきたことから、新たに住民向けに「津波」「洪水」「土砂災害」「高潮」「ため池」のハザードマップを一冊にまとめて作成し、「広報くわな特別号」（仮称）として配布する。

防災力の強化（2）

津波避難施設整備

4,153万1千円

- 南海トラフ巨大地震における津波想定等を踏まえ、地理的に避難が困難となることが想定される長島町伊曾島地区に、一時的な避難施設として、津波避難誘導デッキの整備を進める。

緊急浚渫推進事業

3,500万円

- 台風による各地の河川氾濫などの大規模な浸水被害を踏まえ、市管理河川の浚渫（堆積土砂等の撤去）等を実施し、河川における治水対策を強化する。

スマート自治体への転換（1）

⑧ 保育オンライン申請強化事業

88万円

- 保育所(園)において、年に一度、現況を確認するための届出について、オンライン申請システムを構築する。

⑨ 教育ICT支援員配置

1,548万8千円

- 市立小中学校の情報教育を一層充実させるため、授業活用に向けた計画支援（機器の設定準備・アプリ等の操作方法）・授業活用時の機器トラブルへの対応を含めたサポートを行うICT支援員を配置し、ICT活用推進を図る。

AI等活用推進事業

1,471万4千円

- 行政のDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進するため、オンライン申請の推進や会議開催の効率化、テレワークの活用推進等を行う。

スマート自治体への転換（2）

次世代モビリティ推進事業

2,500万円

- 社会情勢の変化に対応するため、次世代モビリティを活用した実証実験やMaaSアプリ等の導入検討を進める。

ホームページリニューアル事業

2,731万3千円

- 新しい通信機器や基準などに対応するため市ホームページをリニューアルするにあたり、サイト構造・デザイン等の見直し等を行い、ホームページの構築や職員向け研修を実施する。

安定した財政基盤の確立

スマートインターチェンジ推進事業

600万円

- 都市計画マスタープランに位置づけられた、多度地域の南部やインターチェンジ周辺の産業誘導ゾーンへの企業立地をサポートする広域交通網の充実や都市内幹線道路の整備を図る。

企業等誘致奨励金

2,831万3千円

- 本市の産業構造の高度化及び多様化を促進するとともに、企業の振興、産業の発展、市勢の進展を図るため、企業へ立地奨励金を交付する。

⑨ 都市計画道路評価検討事業

1,081万3千円

- 都市計画道路について、計画決定時と比べて人口、交通量等の見通し及びまちづくりの方針が変化し、必要性を見直す路線があるため、まちづくりの方針を踏まえた評価検討を行う。

「重点プロジェクト」の推進



本物力こそ桑名力

多世代共生型施設整備事業

7億 67万2千円

- 高齢者・障害者・子ども等に対して、通所や入所、相談等を包括的に提供する多世代共生型施設の整備を進める。整備にあたっては、公民連携の手法も導入しながら、施設の複合化・多機能化も図っていく。

多度地区小中一貫校整備事業

5億4,858万3千円

- 義務教育9年間を見通した「縦のつながり」と地域・保護者・学校の「横のつながり」を通して、子どもたちの「学び」と「育ち」を支える学習環境の整備を目指し、多度地区で施設一体型小中一貫校の整備を進める。

桑名駅周辺施設整備事業

1,702万円

- 桑名駅自由通路の整備に合わせて、民間事業者の提案をいただきながら、桑名駅周辺を再編することにより、都市機能の集積を図り、利便性・安全性の向上とともに賑わいと活力ある拠点づくりを進める。

「誰一人取り残さない」まちへ（1）

⑧ 医療的ケア児地域生活支援事業

231万円

- 医療的ケア児が医療機関においてショートステイまたは入院した際に、保護者に代わり付き添い介助を行う者を派遣し、保護者のレスパイトを実施することで、在宅生活を支援する。

子どもの安全見守り支援事業

196万9千円

- 保護者の在宅勤務及び外出自粛の増加等により、児童虐待のリスクが増加するとともに、子どもの様子を確認する機会が減少しているため、市内の子ども食堂が実施する宅食業務等を通して、要支援世帯の支援を行い、子どもの見守りを強化する。

分身ロボット活用特別支援事業

60万円

- 肢体不自由児等の特別な支援を必要とする児童生徒が、自宅療養や施設入院等の際に学習機会を損なわないよう、分身ロボットOriHimeを導入することで、自宅や病院にいながら在籍学級の授業への参加や、友人との会話を可能とする。

「誰一人取り残さない」まちへ（２）

竹資源創出推進事業

950万6千円

- 桑名の竹を活用した事業を産官学で推進することで、放置竹林の解消を図るとともに地域内循環を促進し、SDGsの目標・理念に基づく未来に向けた農業・経済活動を推進する。

多文化共生推進事業

234万5千円

- 外国人住民が年々増加している中、多言語電話通訳サービスや多文化共生イベントを実施することで、外国人も含めた誰にとっても住みやすいまちづくりを進める。

福祉総合相談事業

1,874万8千円

- 子育て、介護など複雑化する福祉分野の相談に包括的に対応するため、桑名地区・多度地区・長島地区に設置した「福祉なんでも相談センター」において、必要な福祉サービスの紹介や関係機関との調整を行う。

変革を促す独自の予算編成の仕組み

みんなで“変わる”“変える”予算



本物力こそ桑名力

予算編成にあたって既存事業を17の視点で見直し

- ▶ 令和3年度予算の編成では、経常的経費において従来の財政課での査定を廃止し、各部等に配分する予算枠をもとに部内調整等を行いながら予算を編成するという新たな手法を導入しました。
 - ▶ そして、「みんなで“変わる” “変える” 予算」として、次の17の視点をもとに各所属自らが対象事業すべてを厳密に点検して既存事業の見直しを行い、歳入予算の増加や歳出予算の削減を行いました。
 - ▶ この見直しの効果額は、一般財源ベースで2億1,286万2千円となりました。
- ➡ 捻出した財源は、現場の実情に即した予算措置のほか、少子高齢化を背景とした社会保障関係経費の増、まちづくりへの投資等に活用しています。

◀「みんなで“変わる”“変える”予算」17の視点▶

- ①内部事務の精査、②内部事務や事業の集約化、③体制の見直し、④手法の変更・見直し、主体・執行体制の見直し、⑤委託の仕様内容、需用費等の見直し、⑥在庫等の有効活用、⑦公有財産の適正管理・戦略的活用、⑧執行残(決算)額との比較、⑨計画の見直し(平準化)、⑩国・県・他市基準との比較、⑪歳入の確保、⑫社会経済情勢の変化、目的の達成、⑬政策・施策への有効性、⑭公民連携の取組、⑮データやICTの活用による業務の効率化、⑯民営化・委託化、⑰業務の効率化・働き方の見直し

がんばり“見える化”予算

創意工夫等による改革の成果に対する評価・奨励

- 「**がんばり “見える化” 予算**」は、各所属が所管する事務事業について、創意工夫、新たな手法・アイデアによる歳入の増収や経費節減の成果を評価し、増収額または節減額の全部または一部を所属部署の翌年度当初予算へ還元する制度です。
- 今回のがんばり“見える化”予算では、18部署より申請があり、取組みによる効果額の総額は**5億5,467万円**でした。そして、各取組みを評価した結果、付与額の総額は**920万8千円**となりました。
- 主な取組としては以下のとおりです。付与額は各所属の意向に沿って、市民サービス向上等に資する経費の予算に配分しています。

主な取組	所属	効果額 (千円)	付与額 (千円)
旧大山田終末処理場の売却、未利用地の民間貸付による有効活用	財政課	525,090	—
福祉なんでも相談員・高齢者相談員の兼務	介護高齢課 ・福祉総務課	17,212	5,000
桑名市観光協会事務局体制の見直し 公衆無線LAN (Wi-Fi) 運用経費の見直し	観光課	2,399	1,440
養育医療事務システムの見直し	子育て支援課	273	164
一者随意契約の見直し	各課	8,623	2,161

Creating a Sustainable City



本物力こそ桑名力

市民の暮らし、地域社会・経済を
持続可能な形で支える

社会情勢・市民ニーズの変遷に対応

行政のあり方への改革

継続した取組

“稼ぐ”視点の導入

改革マインド向上

継続した取組

現場重視、現場目線の予算編成へ

庁内全員参加型の予算編成へ

がんばり“見える化”予算

創意工夫、新たなアイデアによる改革の成果に対する評価・奨励！

みんなで“変わる”“変える”予算

一般会計の経常的予算を中心に、義務的経費を除くすべての予算を見直し！